

大型クラゲの出現状況(国際フェリー調査結果等)について-第1報-

1. 大型クラゲの出現情報

(1) 東シナ海における調査船による目視調査結果※¹

① 実施期間 令和8年6月18日～25日

結果 東シナ海西部の10地点での出現量(平均密度) 0.14個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(0.003個体/100m²)よりかなり多い。 〕

(2) 対馬海峡における国際フェリー(博多-釜山航路)による目視調査結果※¹

① 実施期間 令和8年6月16日

結果 対馬海峡では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(6月18日、西水道で0.0002個体/100m²の出現)より、出現時期は遅い。 〕

※1. 国立研究開発法人水産研究・教育機構及び国立大学法人長崎大学、学校法人東海大学により構成される「大型クラゲ国際共同調査共同研究機関」が実施。

(3) 東シナ海から日本沿岸水域における出現の確認※²

- ・令和8年4月26日から6月12日にかけて、東シナ海において2～200個体程度の出現を確認した。6月21日には、対馬西沖で出現を確認した(1個体、傘径25～30cm)。
- ・令和8年6月25日には、長崎県対馬市美津島町の定置網で出現を初めて確認した(1個体、傘径35cm)。

※2. NPO 法人水産業・漁村活性化推進機構の委託を受けて、一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた情報、及び国立研究開発法人水産研究・教育機構の調査船調査の結果による。

過去に対馬の定置網で確認された日

平成21年 6月30日

日本沿岸水域で大型クラゲが大量出現した

平成22年 9月17日

平成23年 9月29日

平成24年 7月24日

平成25年 7月26日

平成26年 8月 6日

平成27年 9月15日

日本沿岸水域で大型クラゲの大量出現が
なかった年

平成28年 6月28日

平成29年 7月 5日

平成30年 6月12日

令和 元年 6月13日

令和 2年 6月16日

令和 3年 6月15日

令和 4年 7月12日

令和 5年 8月21日

令和 6年 6月24日

令和 7年 6月17日

2. 出現動向の概要

東シナ海における調査船による目視調査の6月出現量は昨年よりもかなり多く、日本周辺で中規模程度の出現であった一昨年の同調査結果に比べても多い状況です。対馬海峡（博多～釜山間）における国際フェリー目視調査（6月16日実施）では、未だ出現が確認されていません。その後、6月21日に対馬西沖、6月25日に対馬東側沿岸の地先で1個体ずつ確認されています。昨年に続き国内での初確認は6月と例年より早く、日本沿岸への出現も早くなる可能性があります。韓国における出現状況は、6月下旬まで例年並みで、出現率は低い傾向です。

今後は、韓国に近い対馬海峡西水道と九州に近い対馬海峡東水道の両方向から日本海へ大型クラゲが流入することが見込まれるため、流入量の変動把握と、日本海に入った大型クラゲの動向に注視し、引き続き日本周辺海域における大型クラゲの出現状況のモニタリング^{※3}、出現状況に関する情報提供^{※4}を行ってまいります。

※ 3. 主な大型クラゲ出現状況調査の実施予定（6月下旬～9月上旬）

（国際フェリーによる目視調査）

令和8年6月下旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和8年7月中旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和8年7月下旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和8年8月中旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和8年9月上旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

※ 4. 大型クラゲ出現状況調査の結果については、以下でお知らせしております。

国立研究開発法人水産研究・教育機構

大型クラゲ関連情報 URL：

https://www.fra.go.jp/shigen/marine_environment/kurage/kurage.html

本件照会先（担当者）：

本部 研究戦略部 清水・日下 TEL 045-277-0257

水産資源研究所 水産資源研究センター 海洋環境部 西内 TEL 095-860-1665